

＝ 市史編さん便り＝ 【57号】 令和5年12月20日(水)発行

*****土佐清水市教育委員会・市史編さん室

「第2回土佐清水市史編集委員会」

【1月24日(水)14時】から開催を予定！

来年1月24日(水)14時から2時間程度、**市役所2階・第1会議室**で標記の「第2回市史編集委員会」を実施する予定です。

この会議は、市史編集委員(執筆協力員も一部含む)と事務局で構成する会議で、市史ゲラ原稿の最終校正のチェックを行いたいと考えております。例年、10～11月に実施していましたが、ある程度、通してゲラがそろった方が、都合が良いと思いますので、1月に会議を先送りさせていただきましたのでお知りおきください。年内に依頼文書を発送させていただきます。

◎トサシミズサンショウウオの保護活動実施！12月6日



来年3月末に発刊予定の『新土佐清水市史』通史編第15章動物の章では、高知市動物園わんぱくこうちアニマルランド・吉川貴臣学芸員に市指定文化財(天然記念物)「トサシミズサンショウウオ」について執筆いただいている。

毎年、産卵期前に生息地で保護活動を実施しており、これにアニマルランド職員と足摺海洋館の職員、地元区長等が毎年参加している。

生息地の谷間に遮水シートを張り、そこに雨水で溜まった小池ができる。そこがトサシミズサンショウウオの産卵用人工池(ビオトープ)となる。年数回人工池の水を入れ替え、落ち葉等を取り除き、トサシミズサンショウウオが産卵しやすい環境を整えることが保護活動の目的です。長年にわたる地道な保護活動に本当に頭が下がる思い。深く感謝申し上げたい。

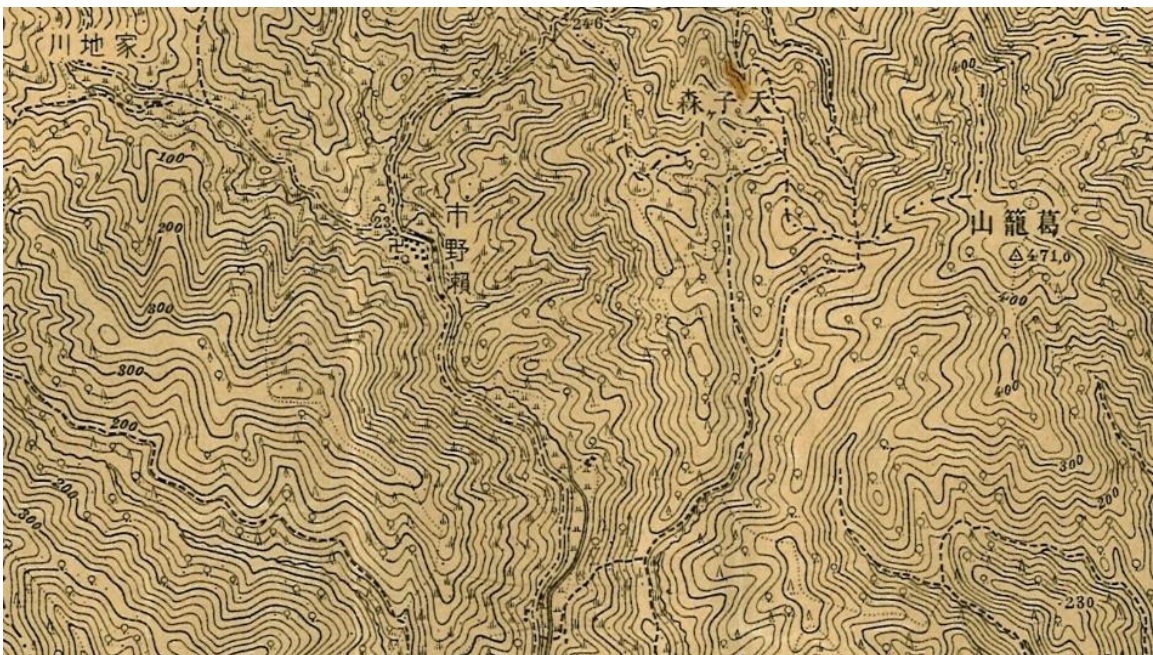
◎「足摺七里の打戻」 明治期の地形図から考察

四国遍路における「岩本寺→金剛福寺」は、四万十市を經由して伊豆田峠を越え、市野瀬集落へ下りて本市東岸沿いに進んで足摺岬に至る。現在は伊豆田トンネル（平成6年）が開通し、バイパスができるとう国道321号は集落を通らず、県道と国道の交わる三叉路で南方へ通り抜けるようになった。一方、金剛福寺から延光寺までは、足摺岬から来た道に戻り、市野瀬の三原分岐から県道を西へ進み、三原村を經由して宿毛市平田町に入る。この真念庵から金剛福寺までを「足摺七里の打戻」といい、来た道を返すという遍路道でも数少ない金剛福寺道に特徴的なルートである。そのため、真念庵は遍路の休息地として、また遍路の荷物を預ける至便の地として重要な役割を果たした。

明治41年1月30日、大日本帝國陸地測量部作成の5万分の1地形図をよく観察すると、天子ヶ森の一隅、標高246m付近を越え往還道が走っている。ここが現在の伊豆田峠に当たる。市野瀬地区は、津藏淵（現在の津藏淵）・中村方面、家地川（現在の家路川）・三原方面、往還を南に下り下ノ加江・土佐清水方面、この3方面の結節地であることがよく分かる。

真念庵とその周辺道は、37～39番霊場をつなぐ結節地として、これまで述べてきたように文化史跡が集積しており、金剛福寺道において最も重要な道の一つとしてこれを保護し、将来に伝えていく必要がある。

下の地形図を見ると、江戸時時代の往還の様子も垣間見ることができるし、市野瀬集落が、3方面に分岐する要地であったことが容易に理解できる。



↑明治41年1月30日、大日本帝國陸地測量部作成の5万分の1地形図